

みすずがけ 10号

平成 18 年 9 月 27 日 発行

「信州の水田跡あれこれ」

—北信・東信・南信での事例—



地下約 1.5m で見つかった江戸時代の水田と畑跡（千田遺跡）

せんだ 表紙の解説～千田遺跡

千曲川との合流地点に近い斑尾川沿いにある千田遺跡 10 区では、洪水による土砂で埋まった水田跡と畑跡が何枚もみつかっています。写真は江戸時代前期頃のもので、奥に等高線方向に細長い水田跡、排水路を挟んで手前に畑跡がみつかりました。この調査面の下層からは戦国時代頃の畑跡と掘立柱建物跡、さらに水田跡がみつかっています。北信の江戸時代以前の水田を考える上で貴重な結果が得られています。

にしいちりづか 西一里塚遺跡

西一里塚遺跡では、洪水砂で覆われた平安時代～江戸時代の水田跡 3 面を調査しました。遺跡周辺の濁川両岸にひろがる低地部分が台地上の古代の集落域に対する水田域として利用されていたことがわかる調査事例のひとつとなりました。



江戸時代の水田跡は等高線に沿う形で畦畔をつくっており、平安時代の水田跡には大畦畔と小畦畔が認められました（写真参照）。なお本遺跡をはじめ周辺には弥生時代の集落遺跡が多くみられますが、いまだ佐久地方では弥生時代の水田跡はみつかりません。平安時代以降の水田跡とは少し立地が異なるのかもしれません。

みしゃぐうじ 御社宮司遺跡

畦畔で細かく仕切られた近世水田

御社宮司遺跡は、^{かみがわ}上川と^{みやがわ}宮川にはさまれた茅野市の低地（^{すいでんちたい}水田地帯）にあります。今回、



江戸時代の洪水で埋まった下から、珍しい水田跡が発見されました。水田の土でつくられた畦畔は約 1.5 m 間隔で平行し、水田のなかを縦方向に仕切るような姿を示すものでした。

遺跡内を横断する中央道の部分からもこのような水田跡がみつかり、広範囲に広がっていることがわかりました。今のところ、水田耕作を営むなかで、ある時期水田のなかを細かく仕切るような目的があったと考えています。今後の検討や科学分析の結果で解明する予定です。

なぜ水田は発掘できるの？

水田と言えば、「畦」でかこまれたなか（「田面」）に稲が植えられている風景が一般的です。水田耕作では「畦」と「田面」は毎年つくり直されるので、今年とまったく同じ姿の水田を来年見ることはできません。似た風景が見えるに過ぎないのです。ところが、ある日、洪水などの自然災害により水田が砂で埋まった場合、その水田は後の耕作で壊されなくなります。ですから、洪水に見舞われた場所ほど、地下に水田がよく残っているわけです。千田遺跡・西一里塚遺跡・御社宮司遺跡で発見された水田跡は、洪水砂の下に良好な状態で眠っていたものです。当時の人々の災難が今日の水田跡研究の発展に大きく寄与しているのですから、皮肉なものです。



洪水で水没した水田跡

なにに見えますか？

千曲市八幡にある東條遺跡から、中世（約500～600年前）の漆椀が出土しました。お椀には、黒と赤の漆で絵が描かれていました。一見するとなにに見えるでしょうか？

たとえば、鶴が羽を丸く広げているようにも見えますし、ザリガニのようにも見えますが……。似たような絵柄を探してみると、富山県小出城跡（15世紀頃）で出土した漆椀がありました。「鶴丸文」と呼ばれているようです。

中世のロールシャッター？



東條遺跡出土の漆椀

今年度、長野県内主要調査遺跡（※位置は4頁参照）

中野市 千田遺跡：古墳時代後期の集落。近世～中世水田跡

飯縄町 表町遺跡：中世集落・縄文時代の落とし穴。

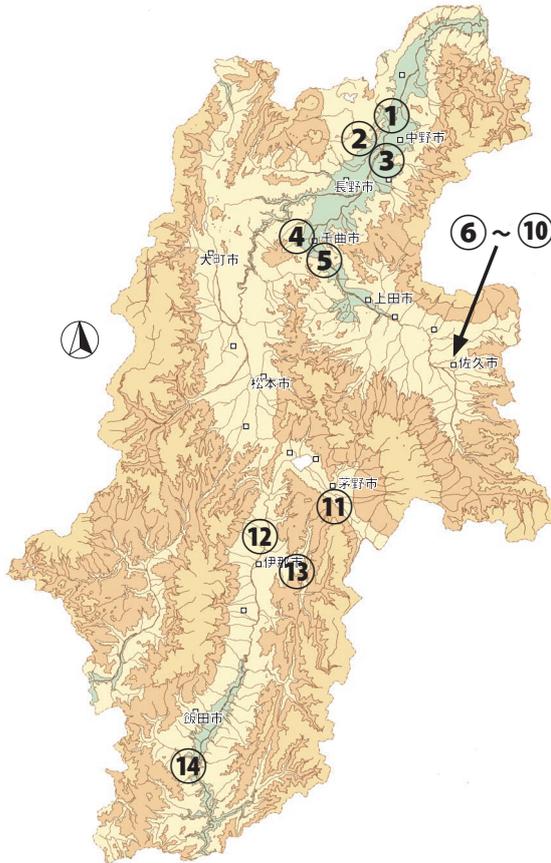
千曲市 東條遺跡：古代～中世の集落。

千曲市 力石条理遺跡群：弥生時代前期～中世の集落。

中部横断自動車道関連：佐久市の西一里塚遺跡・森平遺跡・今井宮の前遺跡・西近津遺跡・周防畑遺跡では弥生時代中期～古代の集落。平安時代の水田跡が調査されています。

茅野市 御社宮司遺跡：中世の集落。近世の水田。

埋文発掘情報



調査遺跡

- | | |
|-------|---------|
| ①中野市 | 千田遺跡 |
| ②飯縄町 | 表町遺跡 |
| ③長野市 | 南曾峯遺跡 |
| ④千曲市 | 東條遺跡 |
| ⑤千曲市 | 力石条里遺跡 |
| ⑥佐久市 | 西一里塚遺跡 |
| ⑦佐久市 | 森平遺跡 |
| ⑧佐久市 | 今井宮の前遺跡 |
| ⑨佐久市 | 西近津遺跡 |
| ⑩佐久市 | 周防畑遺跡 |
| ⑪茅野市 | 御社宮司遺跡 |
| ⑫南箕輪村 | 箕輪遺跡 |
| ⑬高遠町 | 東高遠 |
| | 若宮武家屋敷跡 |
| ⑭飯田市 | 竹佐中原遺跡 |

『長野県の遺跡発掘 2006』を終えて

今年も県立歴史館と伊那文化会館の2会場で、2005年度の調査成果を中心とした速報展を開催し、17,569名の入場者がありました。

今回は、遺跡の臨場感を表現するため、レプリカによる竹佐中原遺跡・千田遺跡の復元展示を行い、好評を得ました。

また、伊那会場では豪雨災害のため遺跡報告会などを中止にせざるを得ず、楽しみにしていた皆さまには申し訳ありませんでした。来年も開催しますので、ぜひご期待ください。



今年の梅雨は長く県内に様々な傷跡を残しました。異常気象という言葉で片付けてしまうには余りあるもので、被害に遭われた皆さまには哀惜の念に耐えません。

自然の力の前に、古代の人々も如何ばかりの脅威を覚えたことでしょう。

(財) 長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007
長野市篠ノ井布施高田963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
E-mail maibun@grn.janis.or.jp
HP <http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>

※タイトルの由来：「みすずかる」＝御簞刈る。

御は、次に続く文字に尊敬や丁寧の気持ちを込める意。簞(すず)は篠竹(すずだけ)の意。刈るは、刈り取るの意。篠竹が信濃に多く採れることから、地名の信濃に係る枕詞(まくらことば)として慣用される。